



(左から)山本由佳理コーチ、高橋あおい選手(仁多中陸上部)、野原朋弥選手(セルリオ島根)、門脇軍馬選手(セルリオ島根)、西村洸希選手(横田高校ホッケー部)、渡部魁斗選手(仁多中剣道部)

第19回アジア競技大会
 <9月24日から10月7日にかけて中国で開催>
コーチとして山本由佳理さんが出場
 「女子日本代表さくらジャパンは、オリンピックに5大会連続で出場しています。パリオリンピックへの切符を得られるよう頑張ります」

みんなでつなごうリレーフェスティバル2023
 <10月7日から8日にかけて東京都で開催>
仁多中陸上部 高橋あおい選手が出場
 「4×100mリレーに出場し、県記録48秒49を塗り替えられるよう頑張ります」

特別国民体育大会(ホッケー競技)[少年男子]
 <10月8日から12日にかけて鹿児島県で開催>
島根県代表として横田高校ホッケー部が出場
 「島根県の代表として、島根県に優勝を持ち帰りたいです」

特別国民体育大会(ホッケー競技)[成年男子]
 <10月8日から12日にかけて鹿児島県で開催>
島根県代表としてセルリオ島根と町出身大学生の合同チームが出場
 「国体優勝を目指して頑張ります」

2023年度全日本社会人ホッケー選手権大会
 <10月21日から25日にかけて佐賀県で開催>
セルリオ島根が出場
 「次の大会への出場券を獲得するためベスト4を目指します」

第18回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会
 <9月17日に大阪府で開催>
仁多中剣道部 渡部魁斗選手が出場
 「島根県の代表としての自覚を持ち、剣道を楽しみながら悔いの残らない試合をしたいです。」

激励式が行われました
 9月15日に役場仁多庁舎で全国大会へ出場する団体の激励式が行われました。全国大会へ出場する団体を紹介します。
 ※「内は各団体の抱負を掲載しています。」



島根県立大学 山下一也理事長(左)

公立大学法人島根県立大学と奥出雲町の包括的連携協定締結

奥出雲町と公立大学法人島根県立大学との間で包括的連携協定を締結し、調印式が9月26日に役場仁多庁舎で行われました。

この協定は、「奥出雲創生」に向け、保健・医療・福祉の向上、教育・文化の振興、医療や子育てに係る人材の育成のほか、学生のまちづくりへの参画を通じた人材還流など、県立大学との間でお互いの資源を活用し、町が抱える社会課題の解決、まちの魅力向上の取り組み等で連携し、地域の発展に寄与することを目的としています。

本日の協定により、県立大学による人的支援等を得ながらまちの活性化が図られると共に、県立大学の調査・研究が進展し、人材育成に資することが期待されます。

糸原町長は、「幅広い分野での積極的な連携事業に一体となって取り組んでいきます。」と述べました。

公立大学法人島根県立大学と奥出雲町との包括的連携協定締結式

町の教育支援として
ホシザキ株式会社様から町に企業版ふるさと納税による寄附

ホシザキ株式会社から町に対し、1千万円の企業版ふるさと納税によるご寄附をいただきました。同社からのご寄附は、平成29年から今年で7年目となり、総額7千万円の寄附となります。当日は、島根工場の落合工場長と木村副工場長、大坂総務課長が仁多庁舎を訪れ、糸原町長へ目録が贈呈されました。

この度いただきましたご寄附は、奥出雲町まち・ひと・しごと創生寄附活用事業の「都市とのつながりを築き、奥出雲町へ新しいひとの流れをつくる事業」において、高校魅力化や小中学校の読書活動、教育用ICT機器の整備、ふるさと教育、楽器の購入など教育の振興に活用させていただくこととしております。

企業版ふるさと納税は、町外の企業が寄附を通じて町が行う地方創生の取り組みを応援いただいた場合に、税制上の優遇が受けられる制度です。町はこの制度を活用して企業からの寄附を募り、「奥出雲町まち・ひと・しごと創生推進計画」に掲げる取り組みを推進しています。



常務執行役員兼島根工場長 落合様(右)

奥出雲町歌作曲者 西村朗氏 死去

奥出雲町歌を作曲した西村朗氏が、9月7日にご逝去されました。享年69歳でした。神話とロマンに彩られた奥出雲町を象徴する町歌を制定するため、奥出雲町町歌検討委員会が、松江出身でNHKのOBである岡弘道氏に国内で著名な先生の選考を依頼したことがきっかけとなり、西村氏に町歌の作曲をしていただくこととなりました。現在、町歌は、毎日のお昼を伝えるために町内で響き渡っています。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



出荷作業をする奥出雲仁多米(株)の従業員



仁多米の新米

新米 奥出雲仁多米(株) 新米を初出荷

令和5年度産の仁多米が、9月22日に奥出雲仁多米(株)のカントリーエレベーターから初出荷されました。今回の初出荷では、通信販売用3トン、レストラン等の業務用6トン、店頭販売用6トンの計15トンが関東地方や中国地方等に送られました。藤井健史部長は、「猛暑や豪雨による影響を心配していましたが、例年並みの出来栄となり安心しました」と話されました。

奥出雲仁多米(株)には、食べられた方から「美味しかった」という電話や手紙が多数寄せられています。

最近では、TBSテレビドラマ日曜劇場「VIVANT」に、島根県仁多郡産コシヒカリとして登場しました。これを機に、より多くの方々に仁多米のファンとなっていたただけることが期待されます。

大手食品メーカー(株)柿安本店 稲刈り交流会

10周年を記念して建てられた看板

三重県に本社を構える(株)柿安本店と奥出雲仁多米(株)の関係者による稲刈り交流会が9月20日に、大馬木の柿安指定農場で行われました。

同社は、明治4年に三重県桑名市に牛鍋屋として創業した牛肉料理の老舗で、最高級の食材を使用した料亭や総菜、和菓子販売等を手がける大手食品メーカーです。

同社の赤塚保正社長は、東京銀座に構える料亭の料理長が仁多米を使用していたことから仁多米を知り、冷めても美味しい仁多米を牛飯弁当用の米として使用するため、平成25年から柿安指定農場を設定し、10周年の節目を迎えました。今では、年間140トンもの仁多米を取引し、全国100店舗で牛飯弁当が販売されています。

赤塚社長は「まだまだ出店していない県もありますので、積極的に出店をして、47都道府県のお客様に柿安を通じて仁多米の美味しさを伝えていきたい」と話されました。

また、奥出雲仁多米(株)から同社に、昨今の国内情勢は生活必需品やエネルギー価格の高止まりにより、個人消費が抑制される状況から、「悪いもの」に打ち勝ち、販売・取引を拡大していく気持ちを含めて、又サノオのお面が送られました。



(株)柿安本店の赤塚保正社長(左)

奥出雲町子どもの居場所 創出支援事業の取組について

地域住民の困りごとの解決を図ろうと労働共同組合33(代表 和久利健さん)が、奥出雲町子ども居場所創出支援事業補助金を活用し、夏休みに弁当配食や「親子で楽しむ食とモノづくり」イベントを開催されました。

夏休み期間中は、家族が仕事で不在になる家庭ではお昼ごはんが悩みのたねになります。そんな困りごとを解決しようと、希望される家庭に弁当を配達。令和5年度は、169食を届けました。この活動により、共働きの家庭の食事をつくる負担軽減や栄養バランスの整った弁当により安心感も提供することができました。

また、8月20日には一味同心塾で、親子イベントが開催され、26名の参加がありました。イベントでは、ヘルスマイトの指導のもと、昼食として親子でハンバーグ等を調理しました。その後、水墨画の講師をお迎えし、水墨画でオリジナルうちわ作りをしました。うちわには、花の絵など、参加者それぞれ思いの絵を描きました。

地域住民の悩みに寄り添い、健全な地域づくりが実施できるよう今後さらに広域に展開されます。



イベントにて、みんなで調理したご馳走を食べる様子



イベントにて、オリジナルうちわを作る様子